

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点(短期経営目標)
<p>授業を大切にし、生徒の能力を3年間で最大限に伸ばして、進路を保障する。</p> <p>そのために、「HUMANITY（人間性）」「PIONEER SPIRIT（先駆者精神）」「SELF COMMAND（克己）」を全ての教育活動の基本とし、社会や家庭等から期待される人材育成を図る存在感のある学校となるよう、知・徳・体のバランスを配慮した高次元の「文武両道」を志し、進取の精神にあふれる教育活動を生徒と教職員が一体となって展開する。</p>	<p>創立50周年に向けた将来構想づくりの一環として、昨年4月6日に「私たちの使命＝ミッションステートメント」を新たに策定・提示し、5年後、10年後の具体的な達成目標を示しながら、ミッションとする「自律する人間の育成」に向けて、「学力向上フロンティア事業」等を核とする特色ある教育活動を積極的に展開することができた。本年度は、そうした取組をさらに充実させ強化していくために、分掌や教科のより積極的に組織的な連携・協働が引き続き求められるところである。鳥羽高校の教育活動のさらなる充実・発展に向けて、家庭、中学校、関係諸機関、地域社会等と緊密な連携を図りながら教育の質を高めるとともに、地域に開かれ、地域から信頼され、期待される学校づくりを一層積極的に推進していくことが必要である。</p>	<p>平成22年4月6日に策定した「ミッションステートメント」の具現化を図る教育活動を積極的に推進するために、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>①「社会とかかわる力」の育成に向けた全日制と定時制の連携による実践研究の推進</p> <p>②類・類型に応じた指導の強化と、思考力・言語力の向上を核とする教育活動の充実</p> <p>③授業評価に基づく学びの改善と授業改善による、生徒の学力と教員の指導力の向上</p> <p>④学習と部活動等を高い次元で両立させる「文武両道」の府内・全国への強力な発信</p> <p>⑤二輪車の事故防止等交通安全指導の徹底による自他の安全に貢献できる態度の育成</p> <p>⑥海外勤務者帰国子女、中国帰国孤児子女等、特別な支援が必要な生徒の教育の充実</p> <p>⑦保護者・地域及び校種間の連携の強化による信頼され期待される学校づくりの充実</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	年間評価	成果と課題
組織・運営	ミッションステートメントの具現化を図る。	各種会議や教科主任会議を通して、ミッションステートメントの具現化に対する計画的な取り組みを行う。		
	学力向上フロンティア事業の取組みを推進する。	分掌や教科の連携・協働を図り、学力向上フロンティア事業の取り組みを推進する。		
	「社会と関わる力」の育成に関する実践研究を推進する。	本校の教育活動をシティズンシップ教育の観点から検証し体系化を図るとともに、より良い鳥羽高校の在り方を研究する。		
学習指導	より効果的な年間指導計画について研究する。	年間行事計画を工夫し、授業時数を確保する。 計画的に学習に取り組みませ、家庭での学習習慣の定着を図る。 定期考査を中心とする授業計画をもとに行事計画を検討する。		
	教科の指導力向上を図る。	思考力を高める授業の研究を推進し、研究授業を企画し、教科指導力の向上を図る。 新学習指導要領に則り、特色ある教育課程の編成を行う。 1・2年生を対象にして、継続して学習状況調査を実施し、学力との相関や経年変化等をきめ細かく分析し、データの提供による効果的な指導を行う。 全生徒による授業評価等を実施し、個々の授業改善を図る。		
	教職員の共通理解を深め、一致した指導体制を確立し、落ち着いた学校環境づくりに努める。	校内における規律を重視し、安易な妥協を排除した説得力のある教育信念に基づく指導に努める。 服装・頭髪・あいさつ・言葉遣い等の具体的な指導項目について、全教職員が目的・方法・規準において一致した指導を徹底して行う。 四ない運動の徹底を図るとともに、年間を通して校門指導と学校周辺の交差点での交通安全指導を実施し、生徒指導部・担任・教科担当者の連携を通して、遅刻と事故の防止に努める。		
生徒指導	望ましい集団活動をととして存在感、充実感のある学校生活を送らせるとともに、リーダーの育成を図る。	生徒会が学校生活の充実・改善や諸課題の解決に主体的に取り組むよう活性化を図る。 文化祭等の各行事を通して、生徒の自主性・自発性の伸長を図る。 部顧問・担任・教科担当者の連携指導を通して「文武両道」を推進する。		
	進路希望の実現を図る。	生徒一人ひとりの進路実現を果たせるよう個別指導を一層充実させる。 諸検査（模擬試験等）の多角的なデータ分析のもと、個に応じた進路指導を行う。 就職希望者全員の内定を達成するために、関係諸機関との緊密な連携を図る。		
	学力の向上を図る。	進学補習や学習合宿を充実・発展させ、生徒の学力向上を図る。 生徒の学力実態を常に把握し、教科にフィードバックさせて教科指導の充実を図る。 就職希望者に対しては、授業に加え、就職対策講座等を通じて基礎学力の向上を図る。		
国際・人権	生徒が人権問題を自らの生き方の問題として捉える態度を育てる。	3年間を見通した系統的な人権学習を各学年、年2回実施するとともに、人権便りを定期的に発行する。 教職員の人権意識の高揚と指導力向上を図るための研修を行う。		
	帰国子女（海外・中国）受入校として国際理解教育の推進を図る。	帰国子女に対する行き届いた指導及び全校生徒への幅広い国際理解教育を行う。 帰国子女の学力や生活状況を把握し、関係教職員の共通理解を図る。さらに、家庭と連携し、個々の課題に即したきめ細かな指導を行う。		
特別支援教育	ノーマライゼーションの考え方に基づいて、必要な学校環境作りを進める。	障害のある生徒の教育的ニーズに応じ、障害による学習上、生活上の困難の改善・克服を図る。		

評価領域	重点目標	具体的方策	年間評価	成果と課題
健康・安全教育	健康に対する認識を深め、望ましい生活習慣を確立させる。	「生活の質向上週間」を実施し、実践力を育てる。		
		健康診断の事前事後の指導を充実する。		
		学校生活に不適応を生じた生徒について関係教職員及びスクールカウンセラーと協議し、その指導法の確立を図る。		
		生徒保健委員会活動を、より活発化させる。		
	健康的な学校衛生環境作りを進める。	ゴミの分別方式を徹底させる。		
		大掃除・屋外清掃・美化週間などを実施して効果的に校内美化を図る。		
		環境衛生検査・安全点検を的確に実施し、不良箇所の改善に努める。		
		生徒整備委員会活動を、より活発化させる。		
図書館教育	図書館の利用を促進し、学力の基盤としての読書力の育成に努め、学習意欲と学力の向上を図る。	新1年生対象の図書館オリエンテーションを読書への興味を高める内容で実施する。		
		「図書館便り」「らいぶらりいにゆーす」を定期的に発行し、生徒の読書意欲を高める情報を提供する。		
		国語科と協力して読書感想文集を発行し、生徒の読書習慣確立を図る。		
	マルチメディア時代の図書館の意義や展望を視野に入れながら、生徒の読書環境を向上させる。	図書館内の生徒用コンピュータを稼働させ、調べ学習等で活用させる。 各教科や他分掌との連携を密にし、蔵書の種類と冊数のバランスを考慮した適切な拡充を行う。		
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携を図り、相互の情報交換を行う。	PTA活動を通じて保護者と教職員が連携を図り、生徒の健全な育成を図る。		
		中学校訪問を実施し、本校の魅力を伝え、中学校とのより良い連携を図る。		
		説明会や出版物、HP等を通じ本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、府民に鳥羽高校への理解を深めてもらう。		
研究・研修	学校組織としての教育力や教科指導力の向上に向けた研修を充実させる。	思考力を育成する研究授業を全教科で行い、教科指導力の強化を図る。		
		課題解決に向けた校内研修・センター研修を計画的・組織的に実施・参加する。		
学習環境・安全	耐震改修工事の円滑な実施に向けて教職員の共通理解を図る。	学習環境の質の確保に努める。		
		生徒・教職員の安全の確保に努める。		
		併設する定時制との連携を密にする。		
文書・情報管理	文書事務の効率化・適正化を図る。	関係分掌や事務部との連携を密にし、收受から施行までの事務の円滑化を図る。		
		法令・規程に基づき、適切に文書の管理・保管などを行う。		
第1学年	学力の向上と自己理解による目標の明確化を図る。	生徒の学習に対する興味と関心を高めるとともに、自ら主体的に学ぶ態度を養う。		
		あらゆる学習活動を通して生徒が自らの適性・能力・関心などを把握し、進路目標の明確化に役立てる。		
		面談・進路相談等の効果的な運用を図り、個に応じた進路指導を行う。		
	バランスのとれた豊かな人間性を育成する。	ホームルーム活動・学校行事等を通じて生徒相互及び生徒と教職員の交流を深め、他者を思いやる心をはぐくみ、信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。		
		国際理解、人権教育を通じて自他の生命や人権の尊重を基盤とした正しい判断力と実践力の育成を図る。		
		総合的な学習の時間を活用し、自らの在り方生き方について見つめさせ社会の一員としての自覚を促す。		
基本的な生活習慣を確立させ、社会的資質の向上を図る。	ルールの存在意義、またそれらを守ることの大切さを理解させ、生徒の規範意識の向上を図るとともに、より質の高いマナーを身に付けさせる。			
	家庭との連携を深め、生徒の主体的な規律ある生活習慣の確立を図る。			
第2学年	学力の向上と進路指導の充実を図る。	類・類型の目的に応じた指導を行う。		
		計画的な進路指導を実施し、生徒の進路意識の涵養に努める。		
		進路補習・土曜学習会・学習合宿・模擬テスト等をより効果的に行う。		
	基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒の規範意識の醸成をはかる。		
		面談や家庭連絡・家庭訪問等により、生徒の抱える問題の早期発見と解決に努める。		
	バランスのとれた人間性の育成を目指す。	国際理解・人権学習を通して正しい人権意識を育成する。		
ホームルーム活動・学校行事等を通じて生徒相互の交流を深めるとともに互いに協力し、他者を尊重する態度を養う。				
第3学年	最上級学年として、誇れる先輩となれるよう指導に努める。	生徒指導部と連携し、基本的な生活習慣の確立を図る。		
		学校行事やHR活動を通じて、集団活動の意義と大切さを認識させる。		
		バランスのとれた人間性の涵養を目指す。		
	全生徒の進路実現に努める。	希望進路達成率100%を目指す。		
		進路指導部・教科との連携を図り、生徒の学力と挑戦意欲の向上を図る。		
		休業中の自学自習のため、自習会や自習室の環境を整える。		
		個別面談、三者面談の効果的な運用を図り、個に応じた進路指導を行う。		